

問題 15. 高異型度尿路上皮癌

症例：83歳、男性。肉眼的血尿。

検体（採取法）：自排尿（LBC TACAS 標本）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、乳頭状集塊が認められる。 ×
2. VSでは、孤在性の細胞の多くは異型尿路上皮細胞である。 ○
3. VSでは、Decoy細胞が多数みられる。 ×
4. 前立腺の検索が必要である。 ×

解説

血尿を背景に、集塊状の細胞および孤在性の細胞が比較的多数認められる。検体は、充分量の細胞の観察が可能であり、適正標本である。集塊内では、線維血管性間質は見出せず、乳頭状集塊とは断定できない。多くの孤在性細胞は、比較的小型ではあるが、核の濃染性、核形の不整や pair cell の存在など、高異型度尿路上皮癌の細胞学的特徴を備えている。核小体の目立つ細胞もあるが、前立腺癌をうかがわせるほど大きい核小体を有する細胞は少ない。Decoy細胞は比較的少ない。以上の所見から、高異型度尿路上皮癌の推定が可能である。



図 1

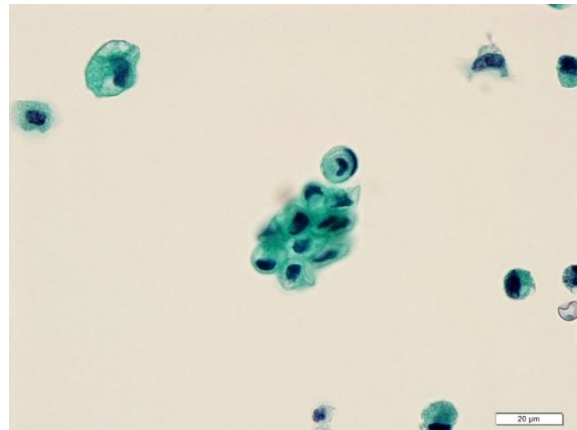


図 2

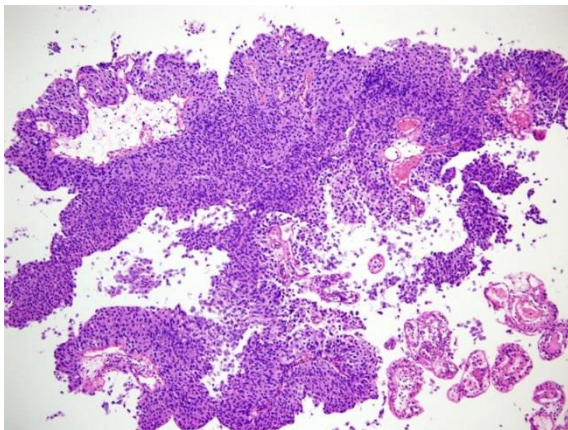


図 3

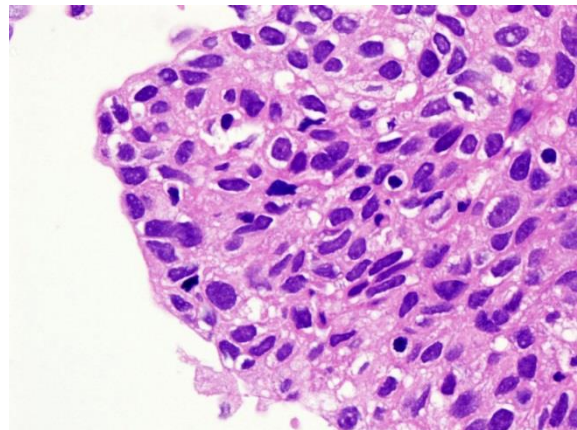


図 4

TURBT 組織標本は、上皮内癌を合併した高異型度乳頭状尿路上皮癌であった。